

一般選抜A日程 国語

出題分析

1 出題数

試験時間は60分で、大問3題の出題となっている。2025年度、2026年度ともに小問は22問であり、解答数は43個である。

2 出題の意図

大問3題の出題で、大問1と大問3が読解問題、大問2が語彙力や文学史の知識を問う小問集合の問題となっている。解答形式は解答用紙に書き込む記述式であるが、自分自身で解答をまとめるという問題はなく、記号選択や抜き出し、漢字の読み・書きといった客観式の出題が中心である。

大問1と大問3で論理的文章と文学的文章(小説)の読解力を測る出題形式となっている。出題される文章の内容については、難度の高いものはなく、設問についても文章の内容が読み取れていれば難なく答えられるものとなっている。受験生が選択肢の内容をしっかりと読み取り、正確に正誤を判断することを意図して作成されている。また、大問1・大問3の漢字問題、大問2の語彙力や文学史の出題を通じて、基本的な知識の習得を測ることも意図している。

3 難易度

大問1と大問3の読解問題は、出題文の内容は易しめであるが、問題はさまざまな出題形式があるため、十分に注意する必要がある。また、大問2についても、やや難しい語句の出題もあるが、多くは目にしたことのある語句なので、基本的な知識があれば対応できる問題となっている。全体的に高校で学んだ知識があれば、高得点が取れる難易度になっている。

受験対策

1. 基本的な読解力の養成を第一に

大学入試として標準的な出題となっている。日ごろから読書に親しみ、教科書や新聞の社説、新書を無理なく読みこなせる読解力を養おう。短い文章から始め、徐々に長い文章を読むようにするとよい。また、問題演習については継続的に取り組むことが必要である。これも易しい問題集から始め、徐々に取り組む問題の難度を上げていくようにしたい。最初は時間の制約を設けずに全問しっかり解き終えるようにし、その後、読み取るスピードを上げるとともに的確に設問に対応できる処理能力を身につけていくようにしよう。

2. 漢字力を充実させる

漢字の読み・書きが大きな割合を占めているのが本学の特徴であるが、特段難しい言葉は出題されないので、完答をめざしたい。そのためには隙間時間などを利用して、漢字問題を集めた問題集に継続的に取り組むことが望ましい。学習のポイントとしては、①手を動かし実際に書いてみること、②同音異義語の区別をきちんとしていることの2つがあるので、実際に書いた漢字と正解をつきあわせ、間違いがないか確認しておくことが大切である。

3. 語彙力を充実させる

大問2の四字熟語やことわざ、慣用句などの言語知識を問う問題では、難度の高いものは出題されず、基礎的な範囲から出題される。学習法としては、これまで使ってきた教材を振り返り、意味の分からない言葉、使い方が不明な言葉などをリストアップしてみよう。もちろん国語知識を扱った問題集を一冊仕上げることも効果的である。学習のポイントとしては、めったに目にするものない難度が高い言葉を追うよりも、日常よく使われる言葉を確実に自分のものにしていくことが合格への近道である。